



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-15 美と健康	20130586001301	●美と健康 I(ヒトの生 物学)	和	E	根本 孝 幸	1年,2年,3年,4年	後期	木 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-15 美と健康	20130586001701	●美と健康 I(歯の進化 と人類学)	和	E	真鍋 義 孝	1年,2年,3年,4年	後期	金 2	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I科目-15 美と健康	20130586002101	●美と健康 I(ストレス と健康)	和	E	中山 浩 次	1年,2年,3年,4年	後期	木 1	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-15 美と健康**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586001301	科目番号	05860013
授業科目名	●美と健康Ⅰ(ヒトの生物学)		
編集担当教員	根本 孝幸		
授業担当教員名(科目責任者)	根本 孝幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	根本 孝幸, 岡元 邦彰, 岡田 幸雄		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	tnemoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科(歯学系) 歯学部基礎研究棟A棟2F		
担当教員TEL	095-819-7640		
担当教員オフィスアワー	12:00-13:00, 16:00-18:00		
授業のねらい	<p>生命現象を担う基本分子であるタンパク質や遺伝子の構造とその働きを理解しよう。これらの生体分子の活動の場である細胞の構造と機能を学ぼう。さらに、これらが統合された形でのように生命活動を営むかを理解しよう。種々のテーマに関するグループ学習を通してみずから進んで学ぶスタイルを身につけよう。</p> <p>本授業により生命としてのヒトを理解するための基礎知識とactive learningの学習スタイルを身につけることが本科目のねらいである。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義(11回)と生命科学に関するテーマ学習成果の発表討論会(4回)。 発表回について：いくつかの課題に対して、あらかじめ14班(各班5-6名)が要約を提出(3回, WebClass上)。その内容を教員が審査後、採択された班(毎回3-4班)が発表を行う。4回の発表回で全班が1回発表とは限らない。提出した要約内容により、2回選ばれる班、1度も選ばれない班もある。</p> <p>各発表回のための要約作成と発表班の準備の時間は授業時間中には取っていないので、図書館などで早めに班ミーティングを開き準備すること。テーマ、班分け等詳細は授業開始後に発表する(本科目のWebClassを立ち上げ、順次情報をUPする)。</p>		
授業到達目標	<p>生体高分子の構造と機能を説明できる酵素化学反応を説明できる。 細胞内及び細胞間の細胞の活動を説明できる。 神経系及び感覚系の機能を説明できる。</p> <p>必要な科学情報を検索し、まとめることができる。 科学情報を適切に提示して伝達することができる。 提示された情報を理解した上で、その内容を討論できる。</p>		
	<p>第1回 喫煙しても癌にならない人もいる?(根本孝幸) 第2回 個体発生のメカニズム: クローン動物の誕生(根本孝幸), 課題1公開 第3回 生物の進化と遺伝(根本孝幸) 第4回 遺伝子構造の解明(根本孝幸), 発表要約のWeb提出(1) 第5回 遺伝子からタンパク質へ(根本孝幸)</p>		

授業内容	<p>第6回 発表会 (1) 第7回 細胞膜って? (岡元邦彰), 課題2公開 第8回 細胞内部でのタンパク質の旅 (岡元邦彰), 発表要約のWeb提出 (2) 第9回 細胞における情報の伝え方 (岡元邦彰) 第10回 発表会 (2) 第11回 神経細胞の働き (岡田幸雄) 課題3&4公開 第12回 感覚I: 味覚と嗅覚 (岡田幸雄), 発表要約のWeb提出 (3&4) 第13回 脳の働き: 高次の精神活動と本能活動 (岡田幸雄) 第14回 発表会 (3) 第15回 発表会 (4) 第16回 試験</p>
キーワード	遺伝子、タンパク質、細胞、発がん、情報(シグナル)伝達、感覚、神経、味覚、嗅覚、脳
教科書・教材・参考書	<p>参考書 第1回-第5回 1. Essential細胞生物学 (1-6章) 原書第3版 中村桂子、松原謙一監訳 南江堂 2010 2. 進化のなぜを解明する J A コイン著 日経BP社 2010 3. 新形づくりの分子メカニズム 上野直人、野地澄晴著 羊土社 1999 第7回-第9回 1. Essential細胞生物学 (15, 16, 20章) 原書第3版 中村桂子、松原謙一監訳 南江堂 2010 第11-13回 1. ニューロンの生理学、D Tritsch他編、御子柴克彦監訳、京都大学学術出版会、2009 2. 標準生理学、第7版、小澤 静司他編、医学書院、2009</p>
成績評価の方法・基準等	<p>個人： 期末試験 (60 点) ,WebClass上のPreテストの回答点 (5点まで)。授業内容に関する特筆すべき質問に1点。 団体： 課題発表(3回)に関しては、要約提出 (10点×3回)。採用されて発表すると1回につき5-10点。発表会での質問 (1回1点 各班の発表1つに対して2点まで) に加点。</p>
受講要件 (履修条件)	特になし。
本科目の位置づけ	「美と健康I」を履修してゆく上で基礎となるモジュールである。しっかりと学習して理解したい。
学習・教育目標	自学自習の学習習慣を習得する。
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	<p>WebClass [H25 ヒトの生物学]を立ち上げるので毎週チェックすること。事業資料の事前掲示、プレテスト、ポストテストその他をUPする。 授業日前日がPreテストの締め切り日であり、締め切り日以降は解答する権利を失う。プレテストの問題はは試験にも出ることもある。</p>



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-15 美と健康**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586001701	科目番号	05860017
授業科目名	●美と健康Ⅰ(歯の進化と人類学)		
編集担当教員	真鍋 義孝		
授業担当教員名(科目責任者)	真鍋 義孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	真鍋 義孝, 加藤 克知		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	全学生		
担当教員Eメールアドレス	manabe@nagasaki-u.ac.jp, k-katou@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科 顎顔面解剖学分野(歯学部)、理学療法学専攻(医学部保健学科)		
担当教員TEL	095-819-7627, 095-819-7964		
担当教員オフィスアワー	月～火 16:30-18:00		
授業のねらい	歯の進化、脊椎動物の進化を通して、人類に到る進化の過程を知り、人類進化の方向性を理解する。さらに、日本人の起源や人類学の研究法等についての知識を深める。		
授業方法(学習指導法)	講義形式で行なう。プリントを配付する。スライド等を使用する。複数の動物頭蓋骨標本の歯の形態を観察して、その動物種を鑑定する実習を行う。		
授業到達目標	(1) 歯からみた脊椎動物の進化の概略について説明ができる。(2) 哺乳類の歯の多様性について説明できる。(3) 霊長類の歯の特徴について説明できる。(4) 人類進化の概略について説明できる。(5) 現代人の起源と地球全体への拡散について説明できる。(6) 日本人の起源と形成過程について説明できる。(7) 骨とミイラの研究法について説明できる。(8) 身体変工の種類・方法・意味について説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	人類学とは 脊椎動物における歯の進化(1) 歯と進化、歯の基本的構造、歯の系統発生学	
	2	脊椎動物における歯の進化(2) 硬組織の起源、歯の起源、脊椎動物の最初の硬組織	
	3	脊椎動物における歯の進化(3) 脊椎動物の歯の進化(無顎類→→→哺乳類)	
	4	脊椎動物における歯の進化(4) 哺乳類の適応放散(食虫目・霊長目・食肉目・齧歯目・奇蹄目・・・)	
	5	脊椎動物における歯の進化(5) 霊長目(初期霊長類からヒト科へ)	
	6	生と死の人類学(ヒトは死んだらどうなるか)	
	7	骨とミイラの研究法	
	8	エジプト、アンデス、日本のミイラ	
	9	風俗や習慣としての「身体変工」の種類、方法、意味	

	10	古代アンデスの人類学
	11	人類進化概説・猿人から新人（解剖学的現代人）まで
	12	人類の拡散と人種（地域的変異）の形成
	13	日本人の起源（旧石器時代）
	14	日本人の起源（縄文時代）
	15	日本人の起源（弥生時代以降）
	16	
キーワード	歯の進化、脊椎動物の進化、人類の進化、人種、日本人の起源、人類学の研究法、生と死、ミイラ、身体変工	
教科書・教材・参考書	プリントを配布する。参考書は授業時に紹介する。複数の動物頭蓋骨標本を用いて、歯の形態を観察する。	
成績評価の方法・基準等	担当教官ごとに筆記試験やレポートを課し、その内容について評価を行う。また出席状況も評価に含める。成績が100点満点中60点以上の者を合格とする。	
受講要件（履修条件）	講義は毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。メールで面談の時間調整を行なうこと。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	脊椎動物の歯の進化、哺乳類の多様性、霊長類の特徴、人類の起源と進化、生と死の概念、身体変工について理解を深め、人類の抱える諸問題について解決能力を育成することを目的とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	関連する参考書などで予習を行なっておく。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-15 美と健康**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130586002101	科目番号	05860021
授業科目名	●美と健康Ⅰ(ストレスと健康)		
編集担当教員	中山 浩次		
授業担当教員名(科目責任者)	中山 浩次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中山 浩次, 筑波 隆幸, 松本 逸郎		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生(クラス等)	工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	knak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科口腔病原微生物学分野		
担当教員TEL	095-819-7648		
担当教員オフィスアワー	水曜日午後5時～6時		
授業のねらい	生体が環境から受けるストレスには多種多様あるが、本科目ではおもに紫外線、酸素、温度、感染によるストレスが生体にどのように影響を与えるか、また、生体はそれらのストレスに対してどのように防御機構を有しているかについて説明する。		
授業方法(学習指導法)	プリントを配布するとともにOHPやスライドを使用して講義形式で行う。講義中に議論を促すため、受講生に質問する。		
授業到達目標	生体が環境から受けるストレスには多種多様あるが、本科目ではおもに紫外線、酸素、温度、感染によるストレスが生体にどのように影響を与えるか、また、生体はそれらのストレスに対してどのように防御機構を有しているかについて遺伝子レベル、細胞レベル、および個体レベルでの反応を説明できる。さらに破綻した場合に生じる病態についても説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	紫外線傷害について説明する。	
	2	紫外線傷害に対する防御について説明する。	
	3	活性酸素の傷害について説明する。	
	4	活性酸素に対する防御機構について説明する。	
	5	活性酸素を利用した生体防御機構について説明する。	
	6	生体とストレス：生体の外と内部からのストレスについて概説する。	
	7	ストレスとしての感染症：生体の外からおこるストレスとしての感染症について説明する。	
	8	酸化ストレス：細胞外と内でおこる酸化ストレスについて説明する。	
9	細胞内のストレス：小胞体ストレスなど細胞の内部でおこるストレスについて説明する。		

	10	ストレスと老化：細胞の内部でおこる老化というストレスについて説明する。
	11	ストレスと自律神経との関係について説明する。
	12	ストレスと内分泌との関係について説明する。
	13	ストレスと免疫系との関係について説明する。
	14	ストレスと中枢神経との関係について説明する。
	15	ストレスと心との関係について説明する。
	16	
キーワード	紫外線、活性酸素、感染、シャペロン、ストレス	
教科書・教材・参考書	プリントを配布し、OHPやスライドを使用する。とくに教科書等はない。	
成績評価の方法・基準等	定期試験での得点で評価する。	
受講要件（履修条件）	特になし。	
本科目の位置づけ	生命の誕生以来、生物はいろいろな環境ストレスに曝されてきた。代表的なストレスについて理解を深めることは現代人として重要である。	
学習・教育目標	環境ストレスの問題についての深い理解を得ることにより、環境ストレスに対処する理念や方法について学習する。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

